

令和 7 年度 施策評価表

第 3 章 健康(けんこう)長寿のまち

まちづくりの目標	市民一人ひとりが、それぞれのおかれている状態の中で、心身の健康を実感しながら、地域の中で安心していきいきと暮らせるまちをめざします。
分野別計画・指針	第2次所沢市保健医療計画、所沢市新型インフルエンザ等対策行動計画、所沢市国民健康保険保健事業実施計画(テータヘルズ計画)、『生きる』を支える所沢市行動計画(気づき、寄り添い、支え合う所沢をめざして)、第3次所沢市スポーツ推進計画

第1節	健康づくり
関係所属	健康づくり支援課、こども家庭センター

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「健康づくり」 市民が健康づくりに取り組むための支援や環境が充実している	651	28.8%	562	24.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	健康寿命の順位	位	5(男性) 12(女性)	1	14 13	× ×

事業目標の達成状況

基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
3-1-1	主体的な健康づくりの推進 健康(健康)マイレージ事業の参加者の1日平均歩数	歩	7,179	8,000	6,374	×
3-1-2	母子保健事業の充実 乳幼児健康診査受診率	%	94.3	99.0	96.2	×
3-1-3	食育の推進 食育に関する料理教室や講習会の開催回数	回	16	18	18	○
3-1-4	歯科口腔の健康保持・増進 むし歯のない3歳児の割合	%	87.3	88.0	95.3	○

節の基本方針への取り組み状況

◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り

- トコトコ健康マイレージ事業は、活用する埼玉県の実業が「コバトンALKOO(あるこう)マイレージ事業」にリニューアルとなったことで、参加方法がスマートフォンアプリに一本化され、歩数計は廃止される変更があった。前年度に引き続き、より魅力ある事業となるよう本市独自のポイント・景品を設定し、参加者募集については、HPや広報紙への掲載、公共施設等でのチラシ配布・ポスター掲示等により周知を行った。また、令和6年10月から12月に「ウォーキング促進強化月間」を設け、各月一日あたりの平均歩数が8,000歩以上の参加者を対象に抽選で景品を贈呈する取り組みや、庁内各課の実施するイベントの参加も独自にポイント対象とする等、市民の歩きの促進に努めた。
- 乳幼児健康診査については、待ち時間が少なく受診できるよう予約制で実施した。3歳児健診では視力検査・屈折検査を実施し、視覚異常の早期発見・早期治療につなげた。
- 食育に関する事業は、市民一人ひとりが、食を通して生涯に渡って健全な心身を培い、豊かな人間性を営むことができるよう、正しい食習慣や野菜摂取の大切さについて周知・啓発するための料理教室や講習会を開催し、昨年度は目標の実施回数を達成した。
- 1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康教室において「むし歯はないが、むし歯リスクが高い者」に対し、個別歯科相談、二次指導を行った。

◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析

- 本市における健康寿命は、令和元年からの5年間の経年変化を見ると男性0.17年、女性0.35年延伸している。健康寿命の順位に関しては相対的なものであり、県内市町村が健康寿命の延伸に向けた取組を進めていることの影響を受けたと考えられる。
- 健康(健康)マイレージ事業の指標となる参加者の1日平均歩数は、健康増進のために必要な歩数を設定しており、条件としては厳しいものであることから目標達成とはならなかった。
- 乳幼児健康診査については、疾患等により協力医療機関以外での受診や、転出入により他市町村での受診者が一定数いるため、目標値には到達しなかった。未受診者については確認を行い、電話や通知、訪問にて受診勧奨を実施している。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 健康づくりに向けた行動ができる市民を増やすため、糖尿病や高血圧、脂質異常症などの生活習慣病予防に関する相談や保健事業に取り組むとともに、健康づくりに関心の低い世代も含む幅広い層へのアプローチを充実させていく。
- 乳幼児健康診査の機会を捉え、児の発育発達の状況を把握するとともに、保護者の心配や育児負担等に寄り添い、適切な相談や支援に繋ぐ。
- 市民一人ひとりが食の大切さを認識し、生涯にわたって健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、関係団体等と連携して、地域全体で食育推進を行う取り組みを実施していく。
- 引き続き1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康教室において、むし歯リスクが高い者に対する個別歯科相談、二次指導を継続していく。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- さらなる健康寿命の延伸に向け、予防や健康増進の観点から、市民の行動変容を促す取り組みを継続するとともに、トコトコ健幸マイレージ事業の実施による市民が楽しみながら歩くことができる取り組みを推進する。
- 本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして、健幸(健康)マイレージ事業の参加者及び平均歩数の増に向け、事業の周知及び情報発信に努める。
- 乳幼児健康診査については、引き続き未受診者へ受診勧奨を実施していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.11	記入者職氏名	健康推進部保健センター長 糟谷 苗美 こども未来部こども家庭センター担当参事 松井 優子
-----	---------	--------	---

第2節	早期発見・疾病予防	
-----	-----------	--

関係所属	健康管理課、健康づくり支援課
------	----------------

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「早期発見・疾病予防」 検診や予防接種など、病気を発見・予防する取組が充実している	981	43.3%	655	28.9%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	大腸がん検診の受診率	%	7.9	8.6	6.7	×

事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
3-2-1	予防接種・感染症の情報提供	二種混合予防接種の接種率	%	77	84	87	○
3-2-2	生活習慣病予防の普及啓発	予約制健康相談(健康・栄養・歯科・リハビリ)の相談者数	人	174	200	134	×
3-2-3	がん検診の普及啓発	がん検診の受診者数	人	40,170	47,000	42,574	×
3-2-4	精神疾患対策と自殺防止対策	こころの健康講座等の参加者数	人	3,246	3,400	3,626	○
3-2-4	精神疾患対策と自殺防止対策	思春期こころの健康相談の相談者数	人	28	32	27	×

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 小児及び高齢者を対象とした定期接種を実施し、小児など優先順位の高い層に対して個別に通知を行うとともに、未接種者への勧奨に努めた。
 - 新型コロナウイルスワクチン接種事業は、任意接種から新たに定期接種として実施した。
 - 予約制健康相談は、各種事業や地域の会議等での周知に加え、高齢者支援課やまちづくりセンター等の関係機関と連携し、様々な年代の方への周知に努めた。
 - がん検診の受診対象者のうち、職域でがん検診を受診する機会の少ない国保加入者、過去の受診履歴がある方、節目年齢の方などの優先順位の高い層に対して年度当初に一斉に個別通知を行った。
 - 集団検診の受診を希望する方が、自身の都合に合わせて受診日を選択し予約ができるよう、予約システムを導入した。
 - こころの健康講座を5回実施し426人が参加。所沢こころの美術展は5日間開催し3,200人が来場した。延べ3,624人に普及啓発を行い、こころの健康への関心や理解が広がるなど一定の成果が見られた。
 - 思春期こころの健康相談では精神科医の専門的な助言により相談者の課題解決を図れるよう適切な支援を実施した。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 大腸がん検診では、受診券発送方法をこれまで国民健康保険の特定健診受診券封筒に大腸がん検診受診券を同封していたが、がん検診関係の受診券をまとめて一斉送付する方式に切り替えたことにより、特定健診の受診をきっかけに、がん検診の受診を検討しようという動機付けが減少した可能性が受診率の目標未達となった要因の一つと考えられる。
 - 予約制健康相談は、目標人数は達成できなかったが前年度より増加しており、様々な機会での周知の効果とスマートフォンなどモバイル端末の普及により、医療情報へのアクセスに関する利便性が向上したことなどの影響が考えられる。
 - がん検診(全体)受診者数についても、大腸がん検診と同様の要因が考えられ、部位別では、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん検診は受診者数が増加しているが、大腸がん、前立腺がん検診は減少となった。前者は、一斉発送による効果が生じたものと推察されるが、後者は一斉発送による効果を、特定健診受診券とがん検診受診券を同封する事を取り止めた影響等が上回ったと考えられる。
 - 思春期こころの健康相談では相談申し込みは目標値と同様だったが、予約後のキャンセルが続いたため相談者数が減となった。

今後の方向性

◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

- 令和7年度以降も継続接種するHPVキャッチアップ接種及び風しん予防接種（第1期、第2期、第5期）は、接種対象及び接種を希望される方が接種の機会を逃すことがないよう、さらなる周知に努める。
- 予約制健康相談は、必要な方に届くよう積極的に事業の周知に努める。
- がん検診は、引き続き定期・継続受診の重要性を周知啓発するとともに、受診しやすい環境の整備に努める。

◆前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

- 集団検診の受診日の予約に際して、予約システムに加えて、新たに電話による予約受付を開始するなど、受診を希望する方が受診しやすい環境づくりを行っていく。また、国民健康保険の特定健診の受診時にがん検診の同時受診を検討する動機付けを確保するため、周知啓発方法を改善する。
- 予約制健康相談は、個々の生活に合わせた具体的な助言のできる相談事業として、適切な相談対応に努め、必要とする多くの方に活用していただけるよう周知を工夫する。また、開催場所を増やし身近な場で相談ができるよう努める。
- がん検診事業では、企業など関係機関と連携し、検診による早期発見・早期治療の重要性についての周知啓発を進め、また、エビデンスに基づいて事業の点検を行うとともに、他市の実施状況等を参考にして、これまで以上に効率的な実施方法について研究・調整を行う。
- 思春期こころの健康相談では、予約をキャンセルした方も支援の必要性が高い場合があるため、状況を確認の上、必要に応じて再予約の案内や相談支援につなげる対応を行う。さらに、支援につながりにくい思春期の若者に向けた相談体制の充実を検討していく。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公平をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナースHIPで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R7.7.11	記入者職氏名	健康推進部保健センター長 糟谷 苗美
-----	---------	--------	--------------------

第3節	地域医療							
関係所属	保健医療課、市民医療センター							
施策に対する市民満足度・要望度 (「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果)※回答数:2,264人			満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度		
「地域医療」 体調を崩したときに身近に受診できる医療機関がある			1,158	51.1%	781	34.5%		
評価指標の達成状況	指標名		単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
	所沢地区病院群輪番制病院の実施		%	実施	現状維持	現状維持	○	
事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況	
3-3-1	救急医療の充実	在宅当番医制の実施状況	-	実施	現状維持	現状維持	○	
3-3-2	地域医療の充実	所沢市歯科診療所あおぞらの障害児者の診療実績	人	821	850	675	×	
3-3-3	市民医療センターの運営	地域包括ケア病床の利用率	%	-	90	76	×	
節の基本方針への取り組み状況								
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り ○所沢地区病院群輪番制事業は、参加医療機関の協力により、輪番制による二次救急医療体制を整備することができた。 ○在宅当番医制事業は、所沢市医師会の協力により、祝休日及び年末年始の初期救急医療体制を整備することができた。 ○所沢市歯科診療所あおぞらは、一般歯科診療所での治療が困難な在宅要介護高齢者・障害児者を対象とした診療及び休日緊急診療を実施した。 ○急性期病床については、外来からの入院のほか、他の医療機関や老人介護施設、地域包括支援センター等からの紹介による入院など、積極的に入院患者の受け入れを行った結果、前年度の入院患者数を2.2%上回ることができた。(全体の入院患者数:11,941人→12,199人)その結果、在宅復帰へ向けた病床である地域包括ケア病床の入院患者数は、目標値には達しなかったものの、前年度を6.6%上回る結果となった。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析 ○所沢市歯科診療所あおぞらでは、感染防止対策のため、1人にかかる診療時間を従来より長く確保する必要があり、1日の予約枠を縮小せざるを得ない状況となっている。 ○地域包括ケア病床については、令和6年度は令和5年度に比べて、延べ223人(3,359人→3,582人)増え、利用率(74.4%→75.5%)が向上したものの目標値には達しなかった。未達成の理由として、身寄りのない方や生活困窮の方の入院が長期化し、入院のまま一般病床に移行してしまう事例等の影響が考えられる。								
今後の方向性								
◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容 ○県や保健所、所沢市医師会、所沢市歯科医師会、協力医療機関等と連携し、救急医療体制の維持や地域医療の充実に努める。 ○所沢市歯科診療所あおぞらについては、利用者アンケートや関係団体のご意見を参考にしながら、質の高い歯科診療の提供に努める。 ○市民医療センターでは、市内医療機関等との連携体制を継続し、小児初期救急医療体制の維持と安定的な運営に引き続き努める。 ○市民医療センターでは、急性期を脱し、病状が安定した患者の在宅復帰に向けて、リハビリテーション機能の更なる充実に努める。								
◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容 ○障害児者歯科診療については、所沢市歯科医師会や関係団体と協力しながらパンフレットの配布やHPIによる情報発信の強化を図り、介護従事者向け研修のなかで在宅要介護高齢者歯科診療についての周知啓発に努める。また、感染防止対策を講じながら、適切な予約管理や診療間隔の工夫により、多くの利用者を受け入れることができる診療体制を整える。 ○近隣の医療機関等との連携を深め、入退院調整を強化し、積極的に入院を受け入れ、病床利用率の向上を図る。 ○市民医療センター地域連携室の活動等を通じ、地域の医療・介護・福祉との連携を深め、患者の状況等に合わせた適切な受け入れ及び転院等に繋げることで病床利用率の向上を図る。								

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.11	記入者職氏名	健康推進部次長 田中 浩文 市民医療センター事務部総務課長 粕谷 憲之

第4節	医療保険・医療情報	
関係所属	国民健康保険課	

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「医療保険・医療情報」 市から医療に関して必要な保険サービスが提供されている	708	31.3%	593	26.2%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H28)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	特定健康診査の受診率	%	39	60	39.4 (R5)	×

事業目標の達成状況

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
3-4-1	保険給付の適正化	第三者行為求償件数	件	45	現状値以上	47	○
3-4-2	特定健康診査等の充実	30歳代の被保険者の健康診査受診率	%	9.7	12.4	13.5	○
3-4-3	生活習慣病重症化予防の対策	人工透析の新規移行者数	人	35	現状値以下	44	×
3-4-4	ジェネリック医薬品の利用促進	ジェネリック医薬品の数量シェア	%	71.9	80.5	88.2	○
3-4-5	後期高齢者医療制度の充実	後期高齢者健康診査の受診者数	人	13,125	16,900	17,111	○

節の基本方針への取り組み状況

- ◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り
 - 特定健康診査の受診率向上のため、受診勧奨ハガキ及び通知の送付、早期受診キャンペーンの実施等に取り組んだ。
 - 第三者行為求償案件の発見に資する取り組みとして、埼玉県国保連合会が作成している「第三者行為求償対象候補一覧表」を活用し、第三者データと突合することにより第三者行為該当レセプトを抽出し対象者に届出励行の通知を行った。
 - 医療費適正化のため、県の「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に参加し、保健指導の参加者を増やす取組み（参加勧奨ハガキの発送）を行った。ジェネリック医薬品の数量シェア向上のため、医師会・薬剤師会・歯科医師会への協力依頼（啓発ポスター・利用希望シールの発送）を行った。
 - 後期高齢者の健康保持・増進のため、健康診査を実施した。実施に際しては対象者に受診券を個別送付したほか、医療機関等にポスターを掲示した。また、地域ケア会議、民生委員、シルバー人材センター等に健診の案内を配布した。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析
 - 特定健康診査受診率についてはR6受診率の途中経過を分析すると、9月の受診勧奨後は増加がみられるが、その後の伸びは鈍い状況である。依然として、40歳代の受診率が低いので、引き続き、若年層に働きかける必要がある。
 - 人工透析の新規移行者数については令和元年度から令和3年度は横ばいであったが、4・5年度の増減を経て、6年度は3年度ベースに戻った状況である。

今後の方向性

- ◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容
 - 特定健康診査等の受診率向上に向け、未受診者勧奨（勧奨通知の発送、商工会議所へのポスター掲示協力依頼、自治会回覧等）に取り組む。特に勧奨通知についてはより効果的なものとなるよう検討していく。
- ◆ 前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容
 - 30歳代健診の受診が特定健診受診へとつながるよう、勧奨ハガキや受診券の発送等、30歳代健診の受診勧奨にも取り組んでいく
 - リスク保有者が人工透析に至るまでには、長い期間があるため、重症化予防対策事業に継続して取り組むことで、被保険者の病状維持及び改善を図る必要がある。予防プログラムに基づいて、リスクのある被保険者への受診勧奨、かかりつけ医の推薦に基づく保健指導等を実施していく。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.11	記入者職氏名	健康推進部次長 田中 浩文

第5節	スポーツ推進	
-----	--------	--

関係所属	スポーツ振興課
------	---------

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和6年度所沢市市民意識調査」の結果）※回答数：2,264人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「スポーツ推進」 スポーツ活動やスポーツに触れる機会が充実している	445	19.7%	369	16.3%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
	スポーツを楽しんでいる市民の割合	%	47.6	51	47.1	×

事業目標の達成状況							
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R6年度目標値	R6年度実績	達成状況
3-5-1	スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進	週1回以上スポーツを実施する成人の割合	%	38.2	52	52.5	○
3-5-2	競技会場の確保や交流機会の充実	ところざわほっとメールにおける「スポーツ情報」の利用登録者数	人	4,554	6,600	6,519	×
3-5-3	スポーツ活動の支援と環境整備	スポーツ・レクリエーション施設利用者数	人	858,492	862,000	809,717	×
3-5-4	スポーツに触れる機会の充実	市ホームページ等のスポーツ情報発信数	回	213	315	446	○

節の基本方針への取り組み状況

◆ **前年度の取り組み状況に対する振り返り**
 ○早稲田大学及び市内水泳事業者と連携して、新規事業の「所沢スイミングフェスティバル」を実施することで、水泳を通じて市民の健康増進やスポーツ振興を図った。
 ○所沢市ゆかりのアスリートが、パリ2024パラリンピック競技大会において金メダル獲得などの活躍をした。大会後、市民とアスリートが交流する場として、凱旋パレードや凱旋報告会を実施した。所沢市ゆかりのアスリートの活動を応援することで、市民にスポーツの関心を高め、スポーツ振興を図った。
 ○所沢シティマラソン大会は第35回を迎え記念大会として開催した。2月開催となったが、コロナ禍以降、最多となる5,249人のエントリーがあった。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**
 ○ところざわほっとメールの受信登録者数は、令和3年度以降減少傾向にあり、目標値には届かなかったが、一方でLINE登録者数が伸びており、市民の情報収集方法の変化によるものと考えられる。
 ○新型コロナ5類移行後、各種大会も開催されるようになり、利用者数は増加しているが、コロナ禍前の状態にまで回復しておらず、目標は未達成となった。

今後の方向性

◆ **「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**
 ○第3次所沢市スポーツ推進計画の基本理念「市民の誰もが、スポーツにふれ、スポーツで笑顔があふれるマチ」に向け、市民の誰もが気軽に楽しめるユニバーサルスポーツの体験会や健康体操教室、親子で楽しむスポーツイベント等、ライフステージに応じてスポーツを楽しむ環境づくりを推進する。
 ○本市ゆかりのアスリートの応援を通して「見る」スポーツの充実を図る。

◆ **前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**
 ○スポーツや各種大会の情報発信をホームページ、ほっとメール、LINEに加え、XやInstagramなどSNSを充実させ、年代を問わずスポーツ情報に触れる機会を創出し、スポーツに親しむきっかけづくりを行う。
 ○施設利用者数の増加に向けて 平日昼間の利用促進を図っていく。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう		10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに		16 平和と公平をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R7.7.11	記入者職氏名	教育総務部次長 三上 佳明